

ギランバレー症候群における電気生理学的検査 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年6月13日～2020年3月31日

〔研究課題〕 神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者 QOL の検証

〔研究目的〕 かつてギラン・バレー症候群(GBS)の神経伝導検査(NCS)は 20%の例で正常、あるいは、数週後まで異常とならないことがあるというような記載がなされていました。我々は、早期の NCS が正常な GBS 例は多くない印象をもっております。本研究では、当科で経験した GBS の複数例について、発症早期の NCS や 針筋電図などの電気生理学的検査の感度について検討し、早期診断に有用であることを証明いたします。

〔研究意義〕 電気生理学的検査の有用性を証明することで、GBS をより早期に診断し、適切な治療を行えるようになることが期待されます。

〔対象・研究方法〕 2009 年以降の当科入院・筋電図データベースから抽出した GBS 患者 40 名程度を解析予定としています。診療録に記載されている臨床所見、筋電図報告書にある神経伝導検査結果、針筋電図結果を後ろ向き手法で抽出検討いたします。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部神経内科

〔個人情報の取り扱い〕収集したデータは、個人毎に匿名化したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式を DVD-R に記録し、封かん用封筒に詰め、倫理委員会事務局に提出します。TARC による保管期間は研究終了から 10 年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARC により適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

〔その他〕 特記事項なし

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：帝京大学医学部神経内科・主任教授 園生雅弘

研究分担者：帝京大学医学部神経内科・講師 畑中裕己、帝京大学医学部神経内科・助教 北國圭一、
帝京大学医学部神経内科・臨床助手 千葉隆司

住所：〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL：03-3964-1211(代表)〔内線 モバイル 7068〕